



対話と思考力

校長 佐久間 郁子

「猫は、怖い感じで『ニャーゴ』と言っていると思います。だって、猫はネズミを食べようと思っているのだから」「そうだよ。だから、低い声で脅かすように音読した方がよいと思います」

2年生国語「ニャーゴ」の学習の一場面です。子どもたちは、この物語文に出てくる猫の3つの「ニャーゴ」をどのように読むとよいのかを考え、説明していました。

山田小学校では、「対話で学びを広げたり深めたりする児童の育成」をテーマに掲げて、よりよい授業づくりのために研修を進めています。これは、新潟市教育委員会が示している教育振興基本計画「にいがた学びのコンパス」の基本施策2に基づき、子どもたちの学力向上を目指して取り組んでいる内容です。山田小学校の教育ビジョンにある育みたい資質・能力の「思考する力」とつながっているものです。

各教室では、

Aさん 「ここは、〇〇となっていますよね(教科書の文や資料、図を示しながら)」

Aさん以外 『はい』

Aさん 「だから、わたしは□□だと思います」

Aさん以外 『同じです』、『なるほど』、『それもあるけれど、ほかにも(考えが)ある』

といった子どもたちの対話が見られます。自分の考えに理由を付け加えて伝える子、それに対して自分の考えを返してあげる子の両者に思考がきちんと働いていないと、このような発言や受け答えはできません。ときには、

『自分(の考え)とは違う。どうしてそうなるのかなあ』

という反応が返ってくることもあります。このような反応が、お互いの考えをより広げ深めていくのです。

こうした活動は、班などの少人数で行ったり学級全体で行ったりと組み合わせてしています。ちょっと自信がないからいきなり全体の場で発言するのは…と思っている子も、少人数の場で自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聴いて自分の考えを確かめたりしている姿が見られます。

本年度の教育活動も後半に入ってきました。一年間の成果を見据え、子どもたちが、学校教育ビジョンに掲げる「思考する力」「かかわる力」「自律する力」を付けていけるように取り組んでいきます。